

二〇〇
二〇〇

行事

左頭書付通り特校書番ヲ命ス
陸軍少佐 吉盛 薛 雄

一 作業ノ指揮班及兵ニシテ隊方ニシテ隊(勤務員ヲ除ク)ノ
全員以テ西北方ヨリ附近ニ於テ隊知構置ヲ作ル

二 村ニ高夫一兵ハ台邊方ニ凡部隊轉屈ノ友メ部隊
本部ニ出ス

三 中隊長ハ下ニ場以上ヲ集合シ毎一三三〇間訓示ス

(1) 陣地構築ハ級ニ好尤モ尚層ノ好カヲ望ム

(2) 兵ノ糾止調査ヲモテ指揮官自任情ヲ持テ新設ノ強化ヲ計ル

(3) 統率力軟弱ニテ又奉命令ハ即日戻行セヨ

(4) 本隊人ハ純朴ナルガ概敏性ナシ概ヲ失セ又教育モセヨ

(5) 作業中ニ於テ直屈上官ノ敬禮及報告ノ実施

(6) 敬禮ノ厳正答禮ノ確実

(7) 班士官以上ノ當番兵ヲ注意

(8) 日夕點呼後兵ノ外出ヲ取締ル事

(9) 歴戦ノ勇士アレド級ニ年多ク存メ居ルニキ
氣分ナシ

(10) 班意工夫ヲ研究セヨ

(11) 陣地構築ニ專念セヨ

(12) 提出書類ノ誤字脱字多シ注意セヨ

(13) 空襲被害ニ於ケル人家ノ掠奪行為ノ件

(14) 不審彈ノ取扱ニ注意シ相向ニ掲示セヨ

(15) 南西諸島トハ戦セテラス敵前テハアル座

襲撃ニハ戦セトシテ併ニ敵地テハナイ

内地テアル

(16) 私的制裁ニシテ之ヲ多ク私的制裁ハヤメヨ

二〇〇
二〇〇

- (17) 物資ノ買上ハヤメ
- (18) 興業ノ勸行番号昇進額ヲ家ニ通知スル
- (19) 紙ヲ節約セシ
- (20) 空襲ノ際ハ射撃ヲ止メテ見守ルル事多シ
- (21) 十月二十八日ヨリ野戦砲隊由設セル
- (22) 中隊長ハ常ニ精神教育ヲ実施セシ
- (23) 作業ノ合間ニ兵器ノ手入れヲナセ
- (24) 如下是等ハ補給困難ニ付各人保存セシ
- (25) 作業ハ土方式ニテ十筆記アル作業ヲナセ
- 最近ニ大本道發表十月十二日ヨリ二十七日
- ノ間ノ戦果發表アリテ終ル
- 勤務 田代軍曹以下一〇名
- 現在員 中隊長以下一五一名

十月三十一日

火曜日

氣象

晴 天

位置

國民政府防務隊

命令

号日命

一

陸軍ニ奉兵 玉城 蓮

右者引継キ何ニテ月間ノ予是ニ以テ無形通信機

業ヲ命メ

日命

一

陸軍准尉 甲斐 實

右人兼合同出陣ノ為メ明日ヨリ一泊ニヨリ

予是ヲ以テ年豆味ニ出張ヲ命メ

會報

十一月三十日ノ印刷書類ノ全部ノ事ノ書類中

依テ右事項ノ頁ニ至ル迄徹底スルニテ教育セラレ

二陣起り念事其心運搬一際此種者必又帯剣ヲ
帯ハシ

三各隊隊形構率ニ爆薬ヲ使用スル際ハ必又警戒
戒備ヲ怠ラズ危険防上ヲ云ハレ度シ

四因々通報セシメ拘メ無断ニテ救メノ物品ヲ持
出ス者アリ必要アリ本部ニ申出シカレ後許可
ヲ得ケ持出サレ度シ

分業一作業ニ指揮飛及才十隊才三十隊ハ勤務員ヲ
除ク全員以テ西北方高地附近ニ於テ陣地ノ

構築作業ヲナス
幸喜及直野地方遺隊現在地於テ陣地
構築作業ヲナス

二三中校官並勤務奉仕隊安星監區外之者構築作
業ニ補助ス

勤務

旅團衛兵 長崎兵長以下六名
彈藥所衛兵 五城上等兵以下四名
糧秣所衛兵 尾比久上等兵以下四名

理員

中隊長以下 一五一名

戦闘詳報第一號

一 戰鬥前ニ於ケル彼我形勢概要

十月八日一〇〇〇丙號戰備下令セラル

十月八日作命第八號ニ依リ第二小隊長村尾少尉以下三十一名
名護西方高地ニ位置セシメ對空射擊部隊トシテ待機セシム

二 戰鬥影響ヲ及シタル氣象地形及往戻地状態

天氣晴朗ニシテ風波無ク飛行ニ適シ往戻ハ初メテ空襲ニシテ

退避ニ取乱シ喧噪ナリ

三 敵兵力

敵機戰爆約百機 延三百機

四 各時期ニ於ケル戰鬥經過

十月十日。七三。敵機攻襲ニ来ル中隊長ノ取得ヲ處置

。七二五伊江島上空ニ於ケル狀況ヲ望見シ直チニ空襲ト判断シ
對空射擊部隊ニ傳令ヲ以テ戰鬥ヲ命ズ。大隊命令ニ基キ大隊

敵機

本部、消火班、下士官一兵六、三中定位ニ位置セシメ、中隊消火班

下士官一兵四ヲ合後ニ待機セシム

中隊指揮班並ニ第三小隊ヲ三中校ニ待機ス

。七三。敵機未襲ト同時ニ對空射撃部隊ハ戦ヲ開始シ三百米

以内ニ接近スル敵機ニ對シ好機ヲ失セズ適時適確ナル射撃ヲ行ヒ

敵機二十機余ニ命中中隊ヲ與フ

五、戦後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

一六三。敵機南方ニ去リ、現在地ニ待機、儘夜ヲ徹シ敵未襲ニ

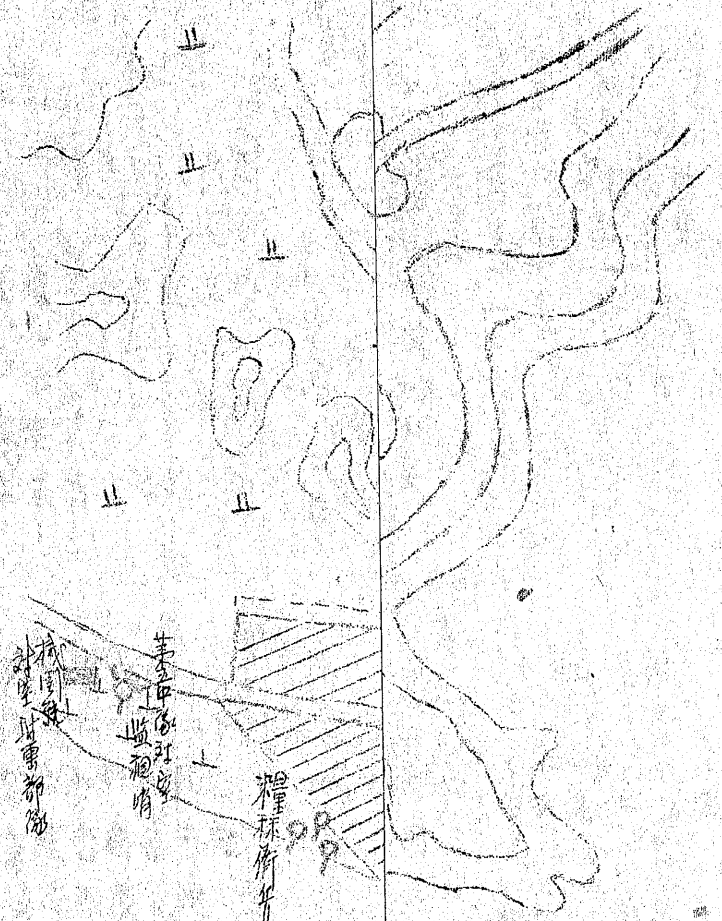
備エ

六、我ガ損害ナシ

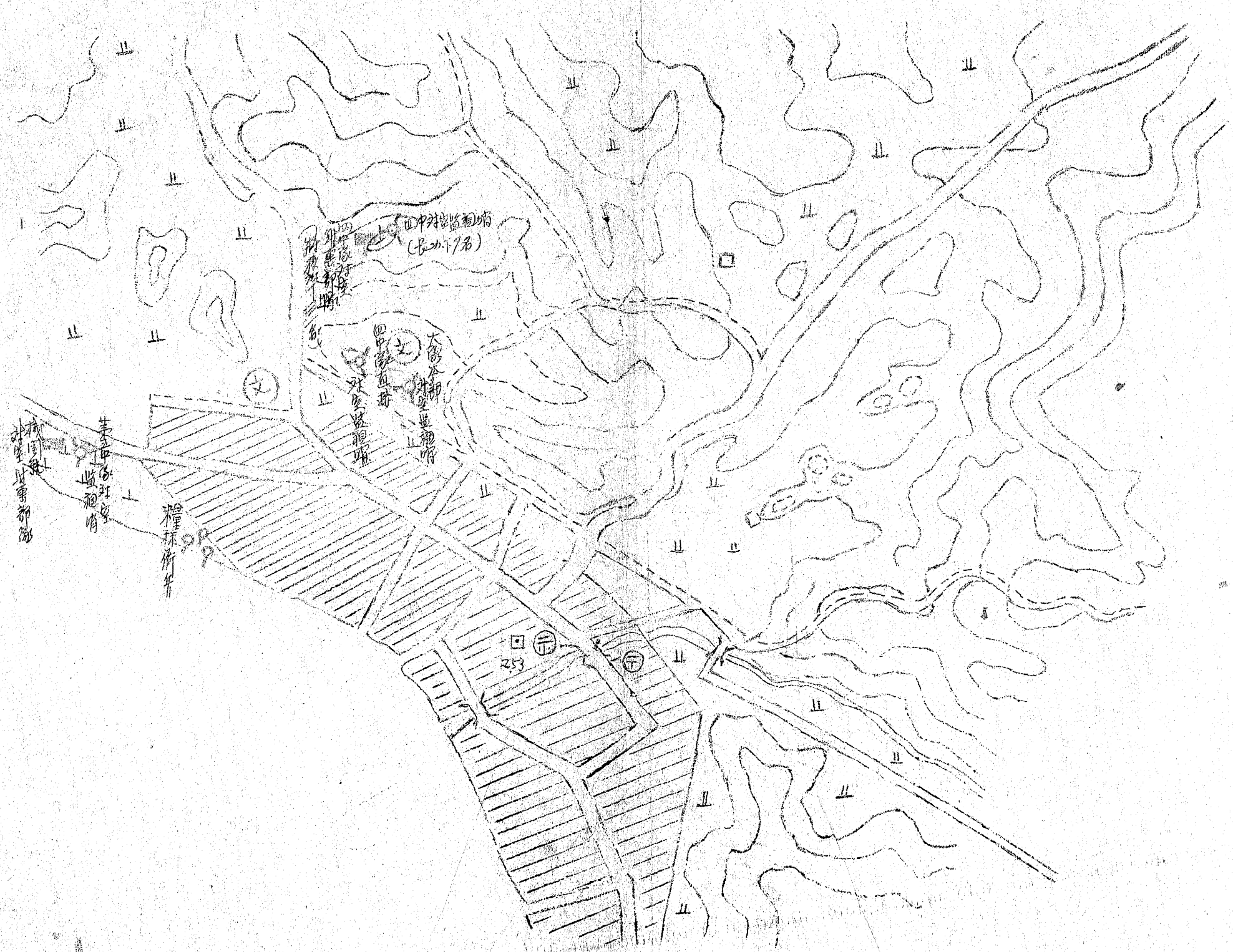
戦闘詳報第一號附表

戦に参加人員 将校四 士官下官兵一六九

消耗彈 小銃彈五二發



拾月白空襲時對空監視所附近對空射擊隊配置要圖



戰鬥詳報第一號附表

戰事參加人員 將校四 陸士官下官兵一六九
 消耗彈 小銃彈五二發

六我ガ損害ナシ

備エ

一六三。敵機南方ニ去リ 現在地ニ待機、儘夜ヲ徹シ敵未獲ニ

